



年 組 名前

道新 ワークシート

平和願い78基の光

稚内 赤れんが通信所に灯籠

【稚内】市内声問村の旧海軍大湊通信隊稚内分遣隊幕別送信所庁舎（通称・稚内赤れんが通信所）で7日、平和を願う灯籠78基がともされた。市民ら約40人が参



雪が降りしきる中、平和の願いを込めて明かりがともされた稚内赤れんが通信所

加し、悲しい歴史を繰り返さぬよう、平和を祈った。稚内ユネスコ協会と稚内市歴史・まち研究会の主催。2011年から毎年、太平洋戦争が開戦した12月8日

に合わせ、平和祈念の明かりをともしている。点灯式で、横田耕一・協会長が「開戦に至ったこの日を記憶にとどめたい。戦争の記憶をなくさないよう、たくさんの方々に伝えていきたい」とあいさつ。合図と共に明かりが一斉にともされた。

終了後、日本建築学会北海道支部の中渡憲彦・歴史意匠専門委員が「戦前における稚内の歴史的建造物」と題して解説した。

B棟のシンボルの望楼周辺を修繕するため、11月に募っていたクラウドファンディングは106人から100万3千円が集まった。今後、補修費用として役立つという。

1941年（昭和16年）、同庁舎から真珠湾攻撃を命じる暗号電文「ニイタカヤマンボレ」が中継送信されたとされている。この年から78年になることから、同じ数の灯籠を並べた。

8日も午後4時～6時に点灯する。

（岩崎志帆）

2019年12月08日（日） 朝刊 留萌・宗谷版 17P

①赤レンガ通信所と太平洋戦争との関連を説明しなさい。

②なぜ、戦争の記憶をなくさないことが大切なのか、あなたの考えを書きなさい。